

新和建設 だより ～新和のわ～

vol. 6

2026年9月25日発行

会社と現場を支える
バックオフィス編

潜入!

本社の1日



事務・総務
おだ ゆ み こ
小田 由美子さん

新和建設の現場を根底から支える社員のリアルな日常に迫るこの企画。今回は、本社で事務、総務を一手に担う小田さんに密着しました。多岐にわたる事務作業を通じて、円滑な会社運営を守る仕事ぶりを一緒に確認していきましょう!

事務・総務業務の概要

少数精鋭で分担!
多岐にわたるバックオフィス業務

本社は、社長、社長のご子息、現場担当者、そして事務、総務を担当する私の4名体制です。私の主な業務は、社会保険関係の手続きをはじめ、お客様からの請求書チェック、支払伝票の作成、元帳への記帳、試算表の残高確認、給与計算など多岐にわたります。人事に関わる申請の手続きや、切手の在庫管理といった細かな作業も私の担当です。社長のご子息とは現金出納などの伝票作成においてダブルチェック体制を敷き、現場担当者とは郵便物の振り分け等で連携するなど、少数精鋭で協力しながら会社の運営を支えています。

仕事のやりがい

『いつも通り』の会社運営を守り抜く達成感

日々神経を使っている給与や賞与の計算、提出期限のある書類などを、間違いなく期日通りに終えられたときに一番ほっとします。日々の業務を淡々と、そして正確にこなすことで、会社や現場を根底から支えられているという実感が、大きなやりがいにつながっています。

資格取得によるスキルアップと評価

業務時間中に資格勉強をさせていただける環境は本当にありがたく、大きなモチベーションになっています。取得した資格が資格手当として給与に反映されることも、日々の業務や新たな目標に向かって頑張る原動力となっています。

本社事務のある1日



08:00 清掃・お茶出し・メールチェック

朝は分担して社内の清掃を行うところから始まります。お茶出しやメールチェックなどルーティンを済ませます。



09:00 資格の勉強

業務に支障がない範囲で、会社のご厚意による資格勉強の時間に充てています。以前、社長に教えていただきながら取得した「2級建設業経理士」に続き、現在は次のステップに向けた勉強を進めているところです。もちろん、銀行関連の対応など、業務がある場合にはそちらを優先します。



11:00 書類整理

細々とした書類整理などを進めます。



12:00 昼休憩



13:00 本格的な事務処理・給与計算

月始めは元帳への記帳や試算表の作成に約1週間かかり、16日以降は給与計算や銀行振込の準備に入ります。すべて手作業で計算や確認を行っているため、読み間違いによるミスや、毎月10日が期限の源泉所得税などの提出遅れが生じないよう、細心の注意を払いながら処理を進めます。

最も重視している業務!



17:00 退勤

退勤の少し前から片付けをはじめ、整理してから退勤します。

今後の目標

誰が見ても困らない引継ぎ資料の作成

万が一、誰かが急に長期休暇を取ることになったり、将来的に後任へ引き継いだりする際に困らないよう、業務の引き継ぎ書やマニュアルをしっかりと整備しておくことが目標です。以前勤めていた会社での教えを活かし、自分以外の誰が見ても日常の業務が滞りなく回るような状態を作りたいと考えています。すでに現在のマニュアルを作成して社長にもお渡ししていますが、今後も随時更新していく予定です。

こんな嬉しい声が届いています 現場力で挑む社会貢献

難易度の高い急傾斜地崩壊対策から、突発的な断水時の給水支援まで。私たちが日頃から積み重ねてきた確かな実績は、平時だけでなく「有事」にも真価を発揮します。大型の散水車を運用する技術や、要請があれば全国へも駆けつける機動性は当社の強み。緊急支援や地域のインフラ維持を担う責任と想いについて、天沼社長に話を聞きました。



代表取締役
あま めま れい じ
天沼 礼二さん

印象に残る感謝の声

千葉県や白老町での 散水車派遣と感謝のエピソード

これまでいただいた感謝の言葉で特に印象深いのは、被災地での支援活動において地域の方々から寄せられた声です。

数年前、台風の影響で千葉県に大きな被害が出た際、北海道開発局からの依頼を受けて、散水車と当社の社員を北海道から現地へ派遣しました。この散水車は、自衛隊の車両よりも多くの水を運べる大型車両です。船橋の道路事務所を拠点に、近隣の住民へ給水を行ったところ、「千葉県なのに、札幌や室蘭ナンバーの車が来て水を配ってくれた」とSNS上で大きな反響を呼び、多くの方から感謝の言葉が寄せられました。当社だけの派遣ではないですが、やりがいを感じた瞬間でした。

また、2025年10月に白老町での大雨によって登別市の水道管が破損し、断水が発生した際にも給水支援を実施しました。このときも地域の方々から「すごく助かった」という温かい言葉をいただき、自分たちの活動が直接地域のお役に立てていると実感できた瞬間です。なお、過去の震災時には派遣要請に備えて社員の着替えや食料、ガスコンロなどをあらかじめ社内で買い揃えたこともありました。散水車をフェリーに乗せて本州へ輸送するなど、これまでも要請に応じて全国各地の支援に携わっています。

地域を支えるために

長年の実績と 誇りが支えるインフラ整備

行政などからの信頼や高い評価につながっている背景には、長年積み重ねてきた確かな施工実績があります。

例えば、山坂が多い室蘭市内では、急傾斜地崩壊対策工事が欠かせません。公共工事は実績がなければ受託できず、対応できる企業が少ない分野です。決して利益率が高い工事ではありませんが、発注元の役所から「引き受けてくれて助かる」と感謝されることも多く、現場の励みになっています。また、道路の維持工事や豪雨による橋の損傷時の緊急対応など、地域のインフラを守る役割は、世の中の役に立っていると実感できる仕事です。今後も地域と社会に貢献できるよう、誇りを持って日々施工にあたっていきます。

「有事」に備える

私は平成の大合併以前から、「各市町村に最低1社は手厚い態勢を持つ建設会社があれば、災害時に迅速な復旧対応ができない」という想いを抱いてきました。「平成30年北海道胆振東部地震」や、近年多発する豪雨災害などを目の当たりにし、その想いはますます強くなっています。今後も確かな技術と実績を基盤として、いざというときに地元の地域の皆様、困っている地域の皆様を支えられる企業であり続けたいと考えています。

仕事中の

密かな

楽しみ!

仕事中にちょっとした楽しみを見つけ、日々の業務へのモチベーションが高まった経験はありますか？今回は維持部門の松田さんに、愛用するお気に入り文具の魅力やエピソードについて伺いました。



まつ だ あん な
維持部門 松田 杏奈さん

私の楽しみは……

お気に入りの文具を使用すること



「楽しみ」を始めたきっかけ

地域のお店から 広がった文具への興味

きっかけの一つは、以前住んでいた地域に雑貨店や文具店があったことです。そうした環境で過ごす中、文具が好きになっていきました。自分のお気に入りのステーションナリーを見つけて仕事に使うことは、モチベーションアップにもつながっています。特に、コンパクトなものやパステルカラーの文具は、可愛くて気に入っています。

「楽しみ」にまつわるエピソード

愛用の品を長く使う日々

少し残念なのは、今いる地域にステーションナリーショップが少ないこと。とはいえ、そのおかげでお気に入りのボールペンなど、現在使用中のアイテムを、長年愛用できています。また、私はもともと物持ちが良いほうです。そのため、気に入ったアイテムは何年も使い続けてしまうこともあるほどです。現在の職場では、デスクに小物類を置かず整理整頓をすることを心がけています。ただ、モチベーションのためにも、今後は1つほど置いてみようかなと考えています。